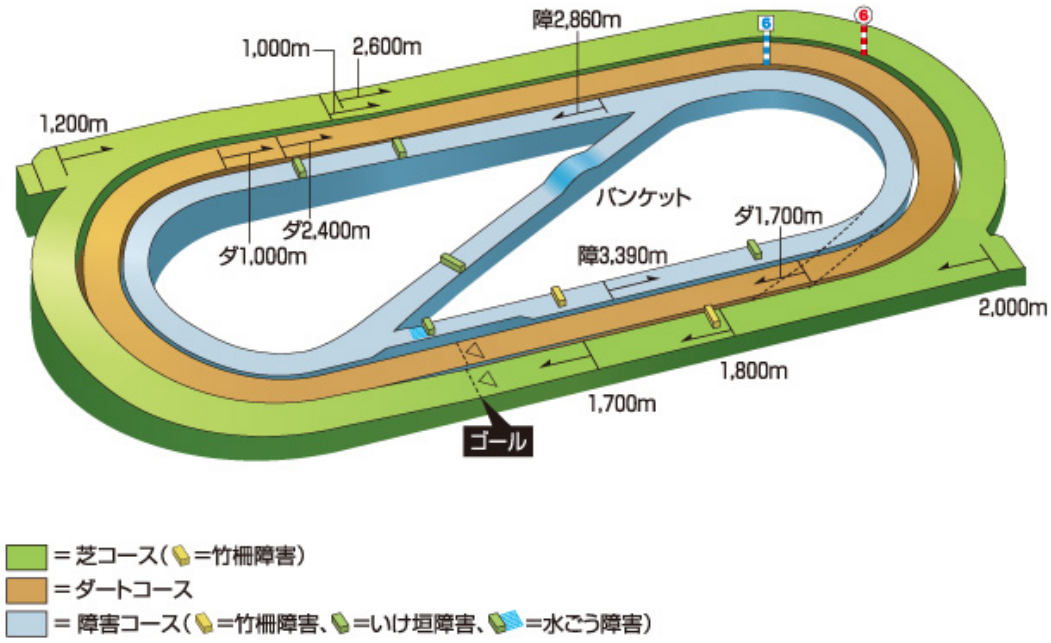
「小倉競馬場徹底攻略ガイド」

presented by KAZ@競馬はビジネスである

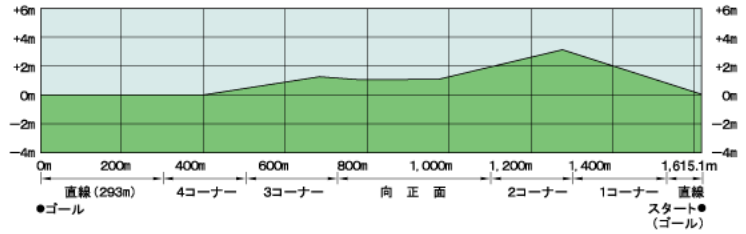
～小倉競馬場の特徴～

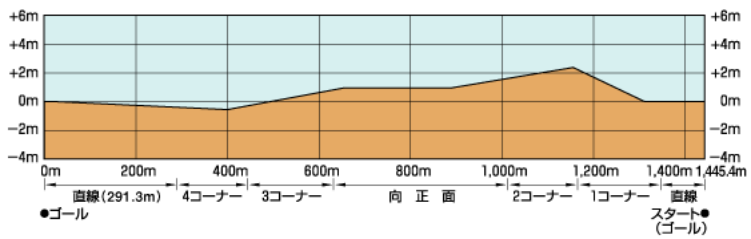


ＪＲＡの中では福島競馬場に次いで小さい競馬場。開催が行われるのは通常、１～２月、７～８月あたり。近年はエアレーション作業を始めてからなかなか馬場造園課も苦労していたようで、一時期は開幕週から差しが決まるような極端な馬場にも。それでもここ２、３年は馬場傾向もはっきりしてきており、今後しばらくは同じ傾向が続くと思います。

オール野芝の夏開催は当然として、オーバーシードの冬開催も開幕直後は凄まじい高速馬場になるのが近年の特徴で、ＣＢＣ賞で２年連続で日本レコードを記録されたのを見ても、最近の小倉競馬場の高速馬場は尋常じゃないレベル。

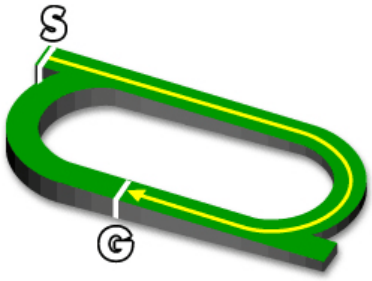
芝レースの施行回数が多いために、開催中に雨の影響を受けると馬場の内側が傷み始めて外伸び馬場になる事が多々。超高速馬場の開催前半と外差し馬場の開催後半でまるで違うレース質になることもあるので、その辺りは注意したい。





小倉芝１２００m

減速要素が全くない電撃スピード戦



スタート地点から３コーナーまで下り坂が続き、直線部分も平坦コースで減速要素が全くない１２００m 戦。テンから勢いがつきやすいために超ハイペースになるのが定番で、未勝利レベルで前半３F＝３３秒を切ることもある。開幕週なのか開催後半なのかにもよるが、前半３ハロン＝３２秒台前半になるとさすがにハイペースという感じで脚を溜めていた差し馬が台頭してくる。

開幕直後は本当に前に行った馬しかどうしようもならないような反則レベルの馬場バイアスが発生しやすく、一方で開催後半はインを通ったらアウトという極端な外差し馬場になりやすい。開催の前半と後半でしっかり狙いを変えたほうがいいコースだろう。

とにかくスピードに特化した条件ということで、上級条件で走破時計が速くなるにつれて父サンデーサイレンス系が不利になってそれ以外のスピード血統が有利に。サクラバクシンオーを筆頭としたプリンスリーギフト系や米国スピード血統が上級条件になればなるほど強調できます。

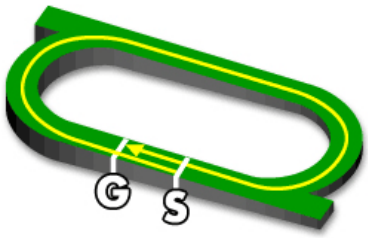
基本的には前有利で先行意識が強い騎手の成績が良い。そのイメージに合致する川田、坂井あたりの成績が優秀なのは当然だが、あまりにもハイペースになる事が多いために、じわっと構えて考えて乗ってくる福永や鮫島駿克の成績もかなり良いというのは覚えておきたい。

＜まとめ＞

□ 減速要素が全くないためにデフォルトでハイペースになりやすい
□ 開催前半は圧倒的に前有利、開催後半は外差し馬場と傾向がガラリと変わる
□ スピード特化型条件なので上級戦になるほど父が非サンデーのスピードタイプが良い
□ 前への意識が強い川田、坂井や、じわっと乗れる福永、鮫島駿の成績が良い

小倉芝１８００m

前半ゆったりからのロンスパ戦で捲りがハマりやすい舞台



スタートしてからすぐに１コーナーがあり、２コーナー地点は丘のようになっていてその部分でラップが緩んで息が入る。向こう正面から下り坂になって小回りで仕掛けが早くなるのが特徴で、大体は前半はじわっと緩んでからのロンスパ戦になりやすい。レースラップ全体としてロンスパ戦になることも多いが、捲る馬が出てきてその馬の影響で一気にペースアップすることも多々あります。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	20-	9-	9-	94/ 132	15.2%	22.0%	28.8%	228	102
平地・先行	55-	59-	53-	269/ 436	12.6%	26.1%	38.3%	71	97
平地・中団	34-	45-	44-	476/ 599	5.7%	13.2%	20.5%	79	66
平地・後方	11-	7-	15-	440/ 473	2.3%	3.8%	7.0%	49	25
平地・ﾏｸﾘ	5-	5-	4-	9/ 23	21.7%	43.5%	60.9%	112	156

※小倉芝１８００ｍの脚質別成績(２０２０年１月～)

途中で動きがある事が多いレースなので脚質的なバラつきはあんまりなし。特筆するべきは捲り戦法の複勝率が６０％を超えていることで、これは全競馬場の中でも屈指に捲りが決まりやすいコースと言えそう。条件戦の小倉芝中距離戦は頭数が揃わない事が多いですし、高速馬場で前がやりあって前潰れで捲りがハマりやすい時も。もともと幅員が広いコースなので外を通って一気に押し上げやすいというのもあるんでしょう。

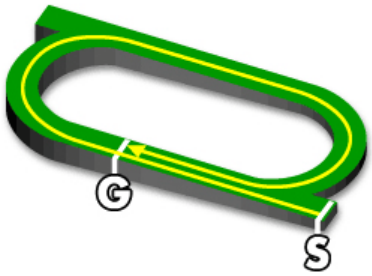
もう小倉コース全てに言える事ですが、川田騎手をこのコースで嫌うのは自殺行為。２０２０年からの複勝率は７５％になりますし、もう川田はほぼ崩れないと覚えておいていいはずです。福永騎手も複勝率６５％で川田に劣るにしても凄い数字を叩き出しています。

＜まとめ＞

□ 前半じわっと進んでのロンスパ戦になりやすい
□ 道中で動きが出る事が多いので脚質的なバラつきは少ない
□ 捲り戦法の複勝率が６割超えで屈指に捲りが決まりやすいコース
□ 川田騎手の複勝率は７５％、福永騎手も複勝率６５％

小倉芝２０００m

１コーナーまでの距離が長く、高速馬場開催ではハイペースになりやすい



小倉芝１８００m から２００m 距離が伸びた分、１コーナーまでの距離が長くなっているのがこのコースの特徴。先行馬が少なければ１コーナーまでゆったりと入ってスローペースになることもあるが、開催前半の高速馬場になると１コーナーまでの先行争いが激しくなってハイペースになりやすい。小倉芝１８００m では複勝率７５％で鬼神のような成績をあげていた川田騎手がこの条件では複勝率４５％まで落ちる点を見ても、それだけ前付けした馬はハイペースで苦しくなる事が多いのかも。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	18- 10- 9- 91/ 128	14.1%	21.9%	28.9%	163	103
平地・先行	53- 47- 51- 232/ 383	13.8%	26.1%	39.4%	83	95
平地・中団	28- 46- 39- 420/ 533	5.3%	13.9%	21.2%	57	74
平地・後方	5- 7- 11- 378/ 401	1.2%	3.0%	5.7%	10	30
平地・マクリ	12- 4- 5- 20/ 41	29.3%	39.0%	51.2%	474	210

※小倉芝２０００m の脚質別成績(２０２０年１月～)

小倉芝１８００m と同様に途中で動きがある事が多いコースなので脚質バリエーションは豊富。小倉芝１８００m に比べると捲り戦法の複勝率は落ちていますが、それでも複勝率５１％はあるので捲りが仕掛けやすい舞台。一気に捲るわけではなくても好位～中団ぐらいの位置からじわっと早めに仕掛ける競馬が決まりやすいコースで、だからこそ現役屈指の捲りファイターの横山和生騎手が好成績をあげられている舞台という感じか。

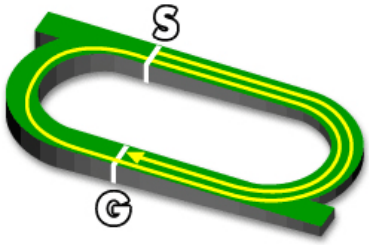
前半から速いペースになりやすく、持続力が要求される舞台ということでモーリス産駒の成績が非常に優秀。複勝率は５０％を超えていますし、この舞台でモーリス産駒が出てきたら素直に従った方がいいかも。

＜まとめ＞

□ １８００m よりも１コーナーまでの距離が長く、高速馬場ではハイペースになりやすい
□ 道中で動きが出る事が多いので脚質的なバラつきは少ない
□ 好位～中団からじわっと仕掛ける競馬が決まりやすい
□ モーリス産駒は複勝率５割超えで大得意としている舞台

小倉芝２６００m

２周目の向こう正面からラスト１０００m＝５９秒台のロンスパ戦



小倉競馬場の芝コース最長距離。コースを２回ほど周回する舞台なので前半～中盤部分で速いペースになることはないが、２周目の向こう正面から下り坂になって勢いがつきやすく、なおかつそもそも高速設定の馬場が多く速い上がりが出やすいのが特徴。他場の芝２６００m 戦と比べてもラスト１０００m の時計が速くなりやすく、だいたいどのレースでもラスト１０００m＝５９秒台になる事が多い。それだけ長距離戦で速い上がりが使える馬が有利なコースと言えるだろう。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値	単適回値
平地・逃げ	6- 5- 4- 28/ 43	14.0%	25.6%	34.9%	115	115	136.4
平地・先行	18- 20- 13- 51/102	17.6%	37.3%	50.0%	82	130	104.7
平地・中団	6- 4- 12- 98/120	5.0%	8.3%	18.3%	21	48	45.7
平地・後方	1- 1- 2-107/111	0.9%	1.8%	3.6%	10	7	16.7
平地・ﾏｸﾘ	4- 5- 4- 10/ 23	17.4%	39.1%	56.5%	173	182	119.1
3F １位	20- 8- 6- 2/ 36	55.6%	77.8%	94.4%	333	208	269.3
3F ２位	10- 10- 6- 15/ 41	24.4%	48.8%	63.4%	169	165	138.9
3F ３位	3- 8- 13- 14/ 38	7.9%	28.9%	63.2%	22	169	44.0
3F ～５位	2- 8- 8- 48/ 66	3.0%	15.2%	27.3%	19	116	24.2
3F ６位～	0- 1- 2-213/216	0.0%	0.5%	1.4%	0	3	0.0

※小倉芝２６００m の脚質別＆上がり３ハロン別成績(２０２０年１月～)

長距離戦ということで道中で動きが出るので脚質のバリエーションは豊富。特筆すべきは上がり３ハロン１位の馬の複勝率が９４.４％という部分。確かに長距離戦は上がり１位の馬の成績は優秀になりがちだが、それでもこの舞台は顕著。それだけラスト１０００m を速く走れる馬が有利という事なんだろう。

後半１０００m が速く走れて長距離適性もあるという点でオルフェーヴル産駒、キングカメハメハ産駒、エピファネイア産駒の成績が非常に優秀。どれも２０２０年からの複勝率が４割を超えていますし、単複回収率も非常に優秀。

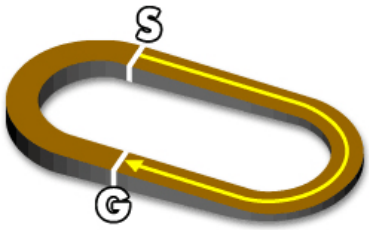
＜まとめ＞

□ 前半～中盤は緩むがラスト１０００m が速くなりやすい

□ 後半１０００m を速く走れるオルフェーヴル、キンカメ、エピファネイアの成績が良い

小倉ダート１０００m

どの馬が最もテンスピードが速いかを競う電撃スピード勝負



小倉競馬場でダート短距離戦といえばこの小倉ダート１０００m。そもそもダート１０００m という条件自体が超短距離戦で先手を奪った馬が圧倒的に有利な傾向。さらに小倉ダート１０００m はスタート地点が下り坂で直線も平坦コースですから、よほど先行馬同士が競り合ったりしない限り前有利は間違いありません。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	37-	22-	13-	21/ 93	39.8%	63.4%	77.4%	281	207
平地・先行	44-	54-	49-	180/ 327	13.5%	30.0%	45.0%	121	150
平地・中団	12-	17-	27-	429/ 485	2.5%	6.0%	11.5%	35	57
平地・後方	0-	0-	5-	320/ 325	0.0%	0.0%	1.5%	0	7
平地・ﾏｸﾘ	0-	0-	0-	0/ 0					

※小倉ダート１０００m の脚質別＆上がり３ハロン別成績(２０２０年１月～)

もう当然のごとく逃げ馬の複勝率は７７％。この条件で逃げる馬がわかればもう自動的にその馬を軸にしてもいいぐらいの成績です。しかも単複回収率はどちらも２００％超えですから、よほどこのコースは逃げた馬の成績が優秀と言えるでしょう。

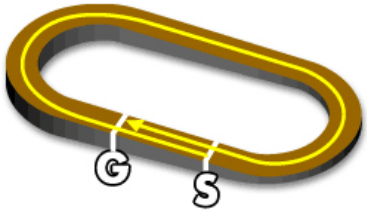
そうなると先行馬の成績も当然優秀ですし、一方で後方待機馬の成績は本当に絶望的。もう２勝クラス戦ぐらいでよほどのハイペース戦になりでもしない限りは逃げ先行狙いに徹した方がいいコースでしょう。

＜まとめ＞

□ ダート１０００m という条件自体が圧倒的に逃げ先行馬が有利
□ 逃げ馬の複勝率は７７％で単複ともに回収値が非常に優秀
□ 後方待機馬の成績は本当に絶望的

小倉ダート１７００m

向こう正面でラップが緩みにくく持続力が問われるダート戦



ダート１７００m はローカル競馬場に４つあるが、細かいディテールを抜きにすれば札幌競馬場以外はだいたい同じと考えて良さそう。札幌ダート１７００m だけは少し傾向が異なるのでその点だけ注意してください。

小倉ダート１７００m はスタートしてから１コーナーまで先行争いが激しくなるも、２コーナー部分が丘になっているので序盤で一旦ラップが緩みます。ただ、向こう正面からは下り坂になるので中盤部分は緩む事がなく、結果的に後続の馬もなし崩しに足を使わされてそのまま前残りが目立つ傾向。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	48- 27- 18- 133/ 226	21.2%	33.2%	41.2%	171	121
平地・先行	107- 116- 100- 344/ 667	16.0%	33.4%	48.4%	163	152
平地・中団	38- 49- 66- 928/1081	3.5%	8.0%	14.2%	50	70
平地・後方	3- 4- 11- 888/ 906	0.3%	0.8%	2.0%	3	11
平地・ﾏｸﾘ	8- 9- 8- 28/ 53	15.1%	32.1%	47.2%	195	135

※小倉ダート１７００m の脚質別＆上がり３ハロン別成績(２０２０年１月～)

だいたいこの脚質別のデータも函館、福島ダート１７００m とあんまり変わりなし。逃げ馬、先行馬、捲り馬の期待値がどれも同じくらいなのでそれぞれのレースの展開がどうなるかを柔軟に考えたいです。

小倉競馬場を主戦場にしていて持ち前の先行力を存分に活かせる条件ということで川田騎手の成績が圧倒的。複勝率は６５％になりますし、あんまり逆らわない方がいいと思います。

＜まとめ＞

□ 函館、福島、小倉ダート１７００m はどれもほぼ同じ
□ 逃げ馬、先行馬、捲り馬の期待値はどれも同じくらい
□ 川田騎手は複勝率６５％で非常に得意としている舞台